

令和 4 年 5 月 21 日現在

機関番号：64401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K01238

研究課題名(和文)インド・オディシャーにおける親密圏の変容：恋愛・婚姻・家族をめぐる情動と経験

研究課題名(英文)Transformation of intimate spheres in India: Emotions and experiences of love, marriage and family

研究代表者

常田 夕美子 (Tokita-Tanabe, Yumiko)

国立民族学博物館・グローバル現象研究部・外来研究員

研究者番号：30452444

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、インドの過去70年余りににおける親密圏の変容を明らかにすることにあった。特に1947年から1990年までのポストコロニアル期から1991年の経済自由化以降のグローバル期への時代的变化に着目し、女性をめぐる親密ネットワークがいかにかに社会経済的動態に適応してきたか、そのなかで恋愛・婚姻・家族をめぐる情動と経験はいかに変容してきたかを検証しようと試みた。本研究は、女性の行為主体性に着目し、変化する時代を生きる人びとが、モビリティを広げつつ、必要なケアと相互扶助の関係を確保するために、親密圏を創造的に再編してきた過程を描写するとともに、親密性をめぐる情動と経験の変遷を分析することを試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1) 社会経済的モビリティを支える親密圏。本研究は、現代インドの親密ネットワークが、村落、都市、海外という多様な場所をリンクし、社会経済的モビリティの基盤となっていることに着目。2) インドの親密圏が内包する柔軟さと異種混淆性への視点。家族・親族が、ダイナミズムを可能にする個人性・自律性と、ケアを可能にする共同性・相互扶助という双方の側面をもっていることに着目。3) 恋愛・婚姻・家族をめぐる女性の行為主体性および情動、経験、価値の変遷への着目。現代インドの女性たちが、公共圏に参加しようとすると同時に、自己をめぐる親密圏の再編をつうじて自らの生の充実あるいは自己実現を図ろうとしてきたことに着目。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study was to identify the transformation of the intimate sphere in post-independence India over the past 70 years or so. Focusing on the chronological changes from the postcolonial period from 1947 to 1990 to the global period after economic liberalisation in 1991, I examined how intimate networks around women have adapted to socio-economic dynamics, and how emotions and experiences around love, marriage and family have changed in this context. By paying attention to women's agency, this study has attempted to describe the process by which people in changing times have creatively restructured the intimate sphere in order to secure the necessary care and mutual support relationships while broadening the mobility of their lives, and to analyse the changes in emotions and experiences of intimacy.

研究分野：人類学

キーワード：インド 女性 親密圏 家族 親族 情動 経験

1. 研究開始当初の背景

(1) インド独立から現在に至るまでの70年余りの間に女性の人生は大きく変化してきた。現代インドにおいては、交通アクセスの発達による通勤・通学、そしてインターネットや携帯電話などをつうじた情報収集などがより容易になり、人々は従来の生活圏を超えた新たな広範囲でのつながりをもつようになってきている[水島他編 2015]。さらに、女性の政治参加、教育・就業の拡がり、セルフヘルプグループの浸透などにより、女性の行動範囲や対人関係も大きく変化し、生活空間や公共参加が拡大している。

(2) 女性たちは、教育や就職などのライフコース、恋愛・家族・親族のかたちや知人・友人との関係をめぐる実践や価値観について、常に再検討と選択が迫られている。従来の父系リネージ、夫方居住婚、カースト内婚にとられないような婚姻や家族のありかたもある程度許容されるようになっており、親密圏の形態は多様化している[Palriwala 1996]。また生活圏の拡大に伴って、親族・知人の親密ネットワークは地理的に広がっており、社会空間的なモビリティの基盤としてその重要性を増している[Deshingkar and Farrington 2009]。そのような状況において、親密圏のありかたは大きく変容しつつある。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、インド・オディシャの女性たちが、過去70年間に、自己をめぐる親密圏の関係性をいかに再編し意味づけてきたのかを明らかにすることである。

(2) これをつうじて、オディシャ女性の恋愛・婚姻・家族をめぐる情動と価値はどのように変化してきたのか、そして、彼女たちは変化する時代のなかで行為主体性をいかに発揮し、社会経済的動態に対応しながら、どのような親密的なるケア関係を模索してきたのか、という問いに答えることを試みる。

3. 研究の方法

(1) 本研究では、フィールドワークを通じて、世代や立場が異なる女性たちに対するライフストーリーのインタビュー、また女性たちがノートなどにためている歌、詩、物語、日記や、女性たちが中心となって行う誓願儀礼(オサ、ヴラタ)についてのパンフレットの収集・読解を中心的に行うことを計画していた。また、オディシャ州立文書館での関連文献収集・読解を計画していた。

(2) ただし、新型コロナウイルス感染症の蔓延のために、計画は大幅に変更せざるを得なかった。2019年度は、3回にわたり調査地での聞き取り調査を行うことができたが、2020年度および2021年度はインドへ渡航できなかったため、国内でインターネット上(WhatsAppを通じて)の情報収集、文献調査、これまでの現地調査内容の整理、論文執筆を行った。

4. 研究成果

1) 2019年度は、3回にわたり調査地での聞き取り調査を行った。当該地域は、2019年5月上旬に上陸した大型サイクロン「ファニ(Fani)」によって多大な被害を受け、復興の最中であった。そのため、2019年8月の現地調査は、サイクロン当時の様子、面談者たちの家族の安否、居住地や出身地の被災状況を中心にインタビューをした。そこで明らかになったのは、女性たちが被災時に政府の援助を受けるのは最終手段であり、可能なかぎり家族・親族のネットワークを通じて相互援助をすることである。

2019年12月の現地調査では、嫁入り道具の変化について、プリーのアーシュラムでインタビューを行った。その結果わかったのは、女性出家者たちは、出家した後も、家族・親族のネットワークとつながっており、世俗の変化に通じていることである。世を離れ修行をする者として、世俗で苦しむ家族・親族を励まし、アドバイスをすることもある。親族の婚姻の際には、アーシュラムを通じて嫁入り道具の支度を手伝うこともある。

2020年2月の現地調査では、夫と死別または別居し実家に戻ったり、介護に携わっていたりする女性を中心にインタビューした。その結果わかったのは、女性たちは、夫に先立たれたり、別居したりして実家に滞在中の場合でも、婚家と携帯電話などで、頻りに連絡をとりながら、自らや子どもの安全を確保していることである。介護が必要な夫を持つ女性は、夫の世話を一人で抱え込まず、家族・親族・友人・使用人のネットワークを使い、自らの心身の健康を保っている。

2019年度の調査研究において総合的に明らかになったのは、女性たちによる家族・親族のネットワークの創造的な構築・再構築であり、それぞれのネットワークを通じた彼女たちの助け合いの方法であった。

2) 2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によりインドへ渡航できなかつたため、現地調査は実施せず、国内でインターネット上(WhatsAppを通じて)の情報収集、文献調査、これまでの現地調査内容の整理、論文執筆を行った。その結果明らかになったのは、女性たちが、自らまたは同居している他の女性が病気や怪我をした際に頼りにする家族・親族・友人のネットワークである。女性たちはそれぞれのネットワークを通じて、新型コロナウイルスの感染拡大にともなうロックダウンや医療の逼迫などに対して柔軟に対応する。自らのまたは周囲の人の病気・怪我によって担当する家事、介護、看護がうまく行かない場合は、直ちに状況に応じて判断し、携帯電話を通じて、姉妹、母親、オバ、女友達、女性の知り合いなどに連絡し助けを求める。また、新型コロナウイルスのワクチン接種など、これまでに経験したことがない不確定・不安要素が多いことについても、携帯電話を通じて積極的に情報収集・情報交換を行う。

今年度の調査研究において総合的に明らかになったのは、昨年度に引き続き、女性たちによる家族・親族のネットワークの創造的な構築・再構築であり、それぞれのネットワークを通じた彼女たちの助け合いの方法である。さらに、新型コロナウイルスの感染拡大によって生じた未曾有の事態に対する女性たちの積極的な働きかけが明らかになった。

なお研究成果の一部は、単著論文として英文雑誌 *Contemporary South Asia* に出版した。

3) 2021年度も今年度も新型コロナウイルス感染症の影響によりインドへ渡航できなかつたため、現地調査は実施せず、国内でインターネット上の情報収集、文献調査、これまでの現地調査内容の整理を行った。インターネット上の情報収集の結果、明らかになったのは、コロナ禍における結婚式の新たな参加方法である。従来は、結婚式の招待状は紙のカードであったが、コロナの状況の中、出席できない人には、WhatsApp や Messenger でのやりとりを通じて招待状の電子版を送り、祝福のメッセージを受け取るケースが見られる。結婚式の写真やビデオも WhatsApp, Instagram, Facebook などを通じて公開することによって、当日参加した人も、参加できなかった人も、オンラインで祝福するコミュニティを形成する。オンラインのやりとりやコミュニティの構築は、女性のネットワークにもとづくことが多い。そこで重要なのは、5-6年ほど前までは、インターネットへのアクセスが困難だった50代から60代の女性たちが、新たに獲得しつつあるデジタル・リテラシーであり、そうした年齢層をもが使えるプラットフォームの出現である。

従来、中年・高齢女性は、Facebookなどのソーシャルメディアにアクセスする際には、夫や子どもが操作するパソコンの端末に頼っていたため、自由に情報の送受信ができなかつた。しかし、近年のスマートフォンおよびより簡便なプラットフォームの普及によって、中年・高齢女性もそれぞれ自分の端末を持つようになり、一人でもやりとりができるようになった。近年における結婚式に関する連絡の電子化も、そのような女性たちが新たに獲得した主体性の現れだと思われる。

4) 総合的な成果として、親密圏の関係性は空間的に移動のネットワークを通じてより大きな範囲に広がりつつあること、携帯電話やスマホなどのコミュニケーション・ツールがそこで大きな役割を占めていること、サイクロンやコロナ感染症などの災害・危機への対処において拡大した親密圏ネットワークが大きな役割を果たしていること、そして親密圏における関係性の構築と維持において女性の果たす役割は大きく、拡大する親密ネットワークにデジタル世界を含めて積極的に参加していることが明らかになった。

<引用文献>

水島司・柳澤悠編 2015『現代インド2 溶融する都市・農村』東京大学出版会。

Deshingkar, P., and J. Farrington. 2009. *Circular Migration and Multilocational Livelihood: Strategies in Rural India*. New Delhi: Oxford University Press.

Palriwala, R. 1996. "Negotiating Patriline: Intra-household Consumption and Authority in Northwest India." In *Shifting Circles of Support: Contextualizing Gender and Kinship in South Asia and Sub-Saharan Africa*, ed. by R. Palriwala and C. Risseuw. New Delhi: Sage Publications.

Seymour, S. 1999. *Women, Family, and Child Care in India: A World in Transition*. Cambridge: Cambridge University Press.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Yumiko Tokita-Tanabe	4. 巻 29
2. 論文標題 Reimagining familial relationships: intimate networks and kinship practices in Odisha, India	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Contemporary South Asia	6. 最初と最後の頁 66-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/09584935.2021.1884657	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------